

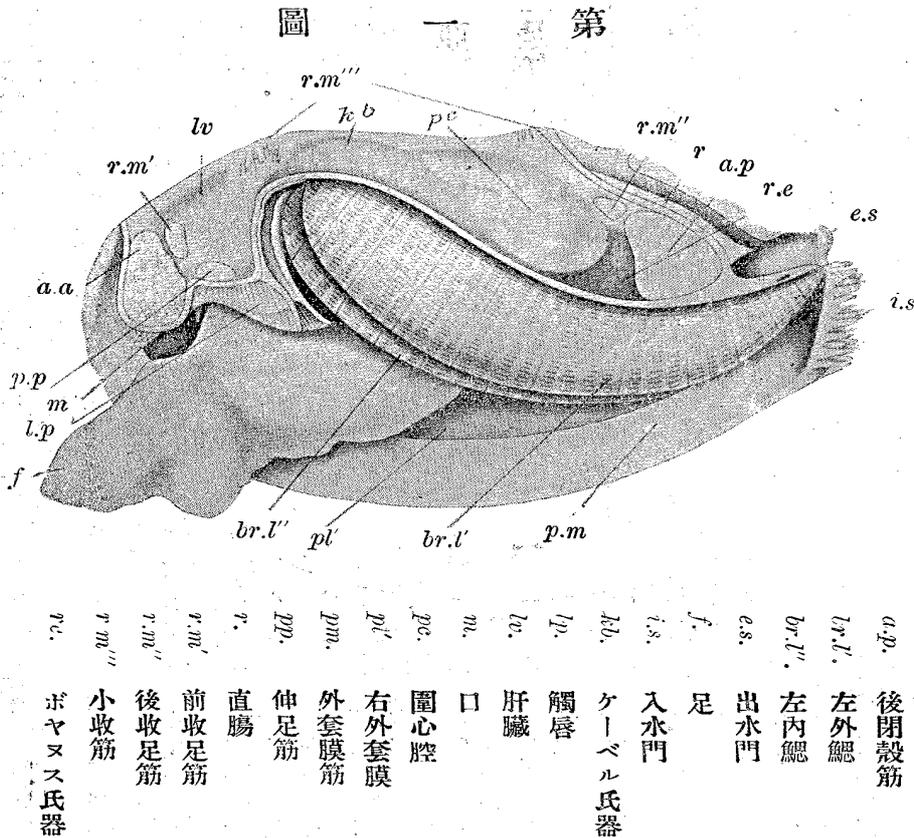
●ドブガヒ 普通カラスガヒ或はドブガヒと稱するものは江河池沼等に産し泥砂底に棲息す三屬 (Anodonta, Dipsas, Unio) を區別し得べし而して今是より述べんとするは其内 Anodonta なりとす然れども此等三屬は其内部の構造頗る相似たるを以て實地研究用材料としては其孰れを採るも可なり。

ドブガヒは黒色或は暗紫色の介殻二枚を以て體の外部を被はれ其殻片は脊側に於て蝶鉸を以て相連結さる此者生活時に於ては泥砂底に其體の約半部を埋没して棲息し兩殻片の間より僅に半透明の柔軟なる肉質部を露出す之れ即ち外套膜 (Mantle, or Pallium) なり外套膜も亦二枚より成り兩殻片の内面に擴がるなり (第四圖参照) 而して外套膜は體の一端に於ては兩殻の間より外方に突出して二個の短かき管状を呈す其尿管は平滑なる壁を有し (第一圖) 他の一管は乳状突起を備ふ (第一圖) 試に生體を水中に置きカルミンの如き有色の粉末を取りて之に散布せんか其細粉は乳状突起を備ふる管より流入するを見る可し故に之を入水門 (Inhalent siphon) と稱し而して尙ほ暫

雜 錄

時注意する時は其細粉は更に他の平滑なる管より流出するを見る可し故に之を出水門 (Exhalent siphon) と稱す。

カラスガヒの左側を開き外套膜の一部を去りたる圖切り口は二重線にて示す。



又他の一方にして蝶鉸に反對せる部分よりは時々舌狀の厚き肉質部を突出するを見ん是れ足 (Foot) にして動物

は之を以て泥砂底を穿ちて進行するものなり而して外來の刺戟を受くる時は水門及び足は收縮して兩介殼内に隠れ殼片は互に閉合するを常とす然れども死せる動物體にありては介殼は常に開放し爲めに兩外套膜及び出水門入水門等を明に檢するを得可く且つ入水門は外套膜の一部の觸接によりて形成せらるゝものなるを知る可し。

蝶鉸は介殼の背部にして其開孔する所は腹部なり而して水門のある端は介殼の後端にして之に反する所は前端にして足は前端より挺出せらるゝなり従て介殼及び外套膜は各左右二片より成るを知るなり。

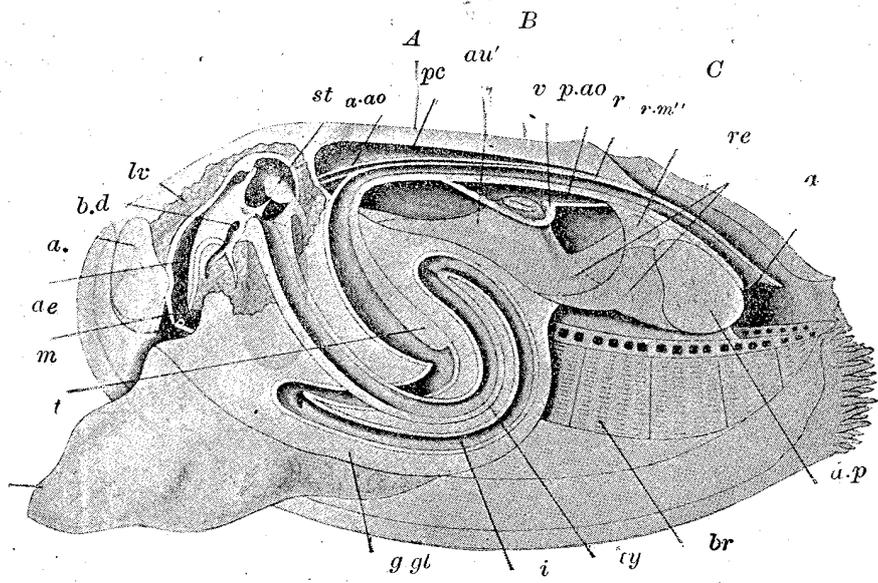
體の主要部は介殼の背部に位し其腹端にして稍前方に偏して厚き筋肉性の足ありて楔狀を呈す而して足の兩側に於て足と外套膜との間に左右各二枚の鰓 (Gills 第一、第二、及び第四圖) あり。

介殼を動物體より剝離して之を檢する時は其兩殼片は蝶鉸線 (Hinge-line) に於て相接着するを見る可し此所に蝶鉸靱帶 (Hinge-ligament) あり(第四圖 *lg.*) 以て左右兩殼片の結合をなす介殼の開展するは此靱帶の働きによるも

のにして其閉合するは閉殼筋の作用によるなり故を以て閉殼筋の作用やむ時は介殼は開展するものとす Anodon-

第一圖に示せる動物の體を消化管の正中線に致るまで切り去り圍心腔、心臟、大動脈管の基部を示せるものなり

圖 二 第



- a. 肛門
 - a.a.o. 前行大動脈
 - au' 右心耳
 - br. 肝管
 - br. 右内鰓
 - g.g.l. 生殖腺
 - i. 腸
 - oc. 食道
 - p.a.o. 後行大動脈
 - st. 胃
 - ty. 腸の縱辨膜
 - v. 心室
- 其他の記號は第一圖に同じ

にありては靱帶の外に各殼片に側齒と稱する一條の隆起

あり *Urio* にありては靱帯の外右殻片に側齒一個左殻片に側齒二個及び側齒の前方に一個の主齒あり。

介殼の外には其腹縁に並行せる數多の線條を見る可し之を生長線 (*Lines of growth*) と云ふ此等の線は介殼の背部蝶鉸の前端に近き隆起部より始まるものにして此隆起部を殻頂 (*Umbo*) と稱す介殼は此部即ち殻頂に於て最も厚し之れ此部は最も古き所なるを以てなり而して新層は此部より次第に下方に且つ之と並行して沈澱するなり故を以て動物體の成長するに従て外下方に擴がり行くなり而して其生長の度に不同あるが爲めに前記の如き生長線を顯はすに至るなり而して殻頂は水中に存在する炭酸瓦斯の作用により多少溶解せらるゝを通常とす。

介殼の内面は其腹縁に並行し且つ之れと少しく距りて一條の線痕あり之れ外套膜の筋肉纖維の附着せる痕跡にして之を外套膜線 (*Palial line*) と稱す又蝶鉸の前端の下部にして外套膜線の終る所に一個の卵圓形の筋痕あり之を前閉殼筋痕 (*Anterior adductor impression*) と稱す又蝶鉸の後端の下方に更に一個の之と似たる稍大なる筋痕一個あり

り之を後閉殼筋痕 (*Posterior adductor impression*) と云ふ (第一及び第二圖 *a.a.* 及び *a.p.* 参照) 此外前閉殼筋痕の後方に小形なる二個の筋痕あり其内背部にあるものを前收足筋 (*Anterior retractor pedis muscle*) の痕にして腹部にあるものを前伸足筋 (*Anterior protractor pedis muscle*) の痕なり又後閉殼筋の直前に一個の小形なる後收足筋 (*Posterior retractor pedis muscle*) の痕あり。

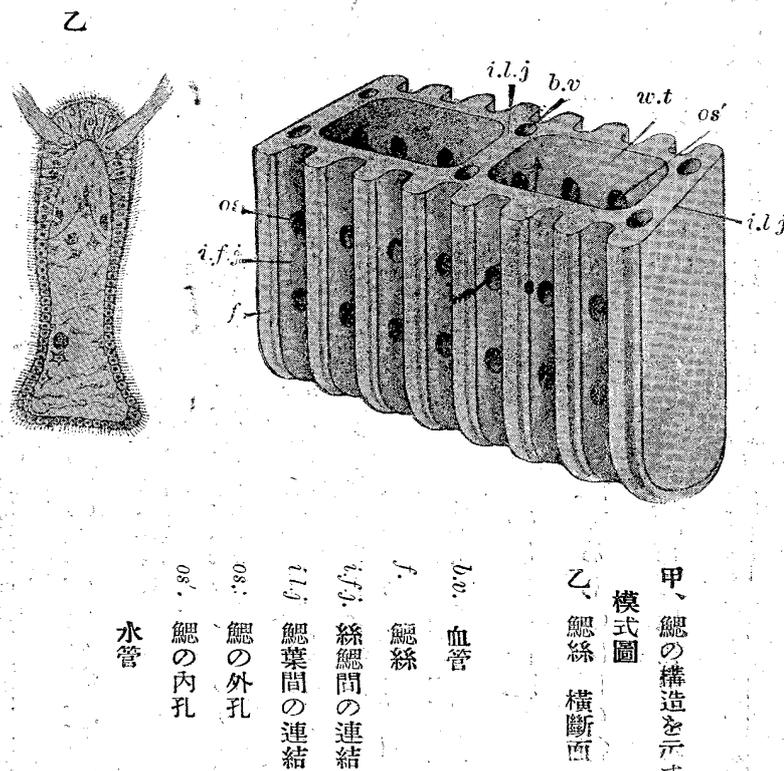
更に肉體部に就て記さんに左右兩外套膜の間にありて鰓足部等を含有する腔を外套膜腔 (*Mantle cavity*) と云ふ。口 (*Mouth* 第一及び第二圖 *m.*) は前收足筋の直下に位し其兩側に各二枚の三角形を呈する觸唇 (*Labial palps* 第一圖 *lp.*) あり其外方に位するものは口の前縁に於て左右連絡し上唇を形成し其内方に位するものは口の後縁に於て左右相連絡して下唇を形成す而して口より入りて食道 (*Oesophagus* 第二圖 *e.*) あり次に胃 (*Stomach, st.*) あり肝管 (*Bile duct, bd.*) は一對ありて胃に開孔す胃に次て腸 (*Intestine, i.*) あり腸は下行し後方に廻り更に前曲し又上昇し胃の後方に於て圍心腔に入る此部は直腸

(Rectum, *rt.*) に於て心臟を貫通して後方に走り終に後閉殻筋の上後方に於て肛門 (Anus, *a.*) に終る而して肛門は排泄腔内に開き排泄腔は出水門によりて外界に通す腸内には縦走せる辨狀突起あり之を腸の縦辨膜 (Typhlosole) 第二及び第四圖 (*ty.*) と云ふ腸官は又時に水晶錐 (Crystalline style) と稱する膠質の桿狀を含有することあり。

鰓 (Gills) は前既に述たるが如く外套膜腔内に位し左右各二枚あり其外方にあるものを外鰓 (Outer gills, 第四圖) と云ひ内方に位するものを内鰓 (Inner gills) と云ふ而して各鰓は更に内鰓葉 (Inner lamella) 及び外鰓葉 (Outer lamella) の二枚より成りて此等の二枚は其前縁腹縁及び後縁に於て互に連絡し只其背縁のみ連絡せず鰓は斯の如くして頗る長くして上方に口を開く袋狀を呈するなり(第二圖及び第四圖参照)而して其内腔は更に縦走板によりて分割せらる此縦走板を稱して鰓葉間の連結 (Interlamellar junction 第二圖 *l.j.*) と云ふ此の連結部によりて形成せられたる小腔を鰓水管 (Water tube, *wt.*) と云ふ

此小腔も亦從て腹端閉ちて背端開通するものなり。鰓の表面に數多の並行せる縦走線條の存在するは各鰓葉は數多の鰓絲 (Gill filaments 第二圖 *f.*) より成れるに

第 三 圖



甲、鰓の構造を示す
模式圖
乙、鰓絲 横斷面

b.v. 血管
f. 鰓絲
i.f.j. 絲鰓間の連結
i.l.j. 鰓葉間の連結
os. 鰓の外孔
os. 鰓の内孔
wt. 水管

よるなり而して又其表面に横走線條の顯はるゝは此等の鰓絲を横に連結する所の鰓絲間の連結 (Inter-filamentar junctions 第三圖 *f.j.*) の存在するによるなり。(以下次號) (飯塚)